

三番瀬漁場再生事業関係の取組について(平成25年度実施計画と進捗状況)

資料 1-1

事業名	平成23～25年度 3か年の目標	平成25年度実施計画 [下線部の取組(拡充部分)]	平成25年度の進捗状況
豊かな漁場への改善の取組	○漁業者・地元市及び県の協力による漁場改善への取組, モニタリング調査を通じた漁場改善効果の把握	1. 漁場改善策と連携したモニタリング調査 覆砂実施区画のモニタリング調査を継続 2. 「三番瀬漁場再生事業連絡協議会」の運営支援	1. 漁場改善策と連携したモニタリング調査 ・流向・流速調査:10月～12月 ノリ芽の生長に併せて実施予定。 ・底質調査:8月に粒土組成、強熱減量及び酸化還元電位の測定。 ・水質調査:10月～12月に水温、塩分、ph、溶存酸素量の測定を実施予定。 ・生物調査(漁業者が実施):4、6、8月に実施済。10、12、2月に実施予定。(資料3 覆砂実施区画図、資料4 生物調査結果) 2. 「三番瀬漁場再生事業連絡協議会」の運営支援 9月に第4回協議会、翌年2月に第5回協議会を開催予定。
干潟漁場の環境保全	○アオサやヒトデ、ツメタガイの回収除去など良好な干潟漁場環境づくりの推進	1. アオサ:漁業者と連携し発生量モニタリング調査を継続(6～11月, 1回/月)。 2. 干潟漁場に悪影響を及ぼすアオサやヒトデ、ツメタガイの発生状況に応じた回収除去作業などの環境保全活動を推進。 3. 拡充部分の取組 ・客土(覆砂) ・干潟漁場の底質改善や水質改善:海底耕うん、二枚貝の放流等。 ・種苗(二枚貝)の放流。 ・稚貝等の沈着促進、密度管理 ・保護区域の設定。 (資料2参照)	1. アオサ調査:6月、7月、8月の3回実施。大規模な発生は認められない。 (資料5 7/31現在)
ノリ養殖対策	○三番瀬の漁場特性・環境に対応した適切なノリ養殖管理技術の向上	1. 養殖施設の適正配置の指導・育苗期のノリ芽健全度調査, 生育状況の情報提供を実施 2. 10～12月にかけて場所別のノリ生長量・疾病発生状況調査を実施し, ノリ養殖管理技術の改善向上に向けた基礎データを収集・整理	1. 千葉北部地区ブロック会議(ノリ養殖)において, 前年漁期のノリ養殖調査結果について報告するとともに, それに基づいた今漁期のノリ養殖施設の適正配置や生産方針について協議。 今漁期も健全種網確保を第一とした育苗を行うとともに, 好適漁場の把握による効率的な生産を心がける方針を確認した。 2. 8月以降, 調査計画について漁業関係者との打合せを進め, 10月より調査を実施予定。
貝類漁業対策	○アサリの冬季減耗対策, 稚貝対策, ハマグリの資源培養, ホンビノスガイ資源の有効活用の推進	1. アサリの冬季減耗対策 被覆網による保護育成手法の普及と網袋を利用した保護育成手法の導入試験の実施。 2. 稚貝対策 稚貝の適地移植などの取組を支援。 3. ハマグリの資源培養 組合が放流するハマグリを追跡調査を実施し, 放流適地を検討する。 4. ホンビノスガイ資源の有効活用の推進 漁獲状況と資源動向のモニタリングを継続。	1. アサリの冬季減耗対策(資料6) ・被覆網:発生した稚貝の保護育成手法として, 今年度における被覆網の実施について漁業者と検討。 ・網袋:秋季発生稚貝を用い, 網袋による保護育成効果の検証試験を予定。 2. 稚貝対策 ・アサリ稚貝が高密度で発生している区域から, 漁場内で生息密度が低く, かつ適地と推定される区域への移植を実施予定。 3. ハマグリ資源培養 ハマグリ種苗の育成技術開発は, 浮遊幼生期における適正な塩分を把握した。 4. ホンビノスガイ資源の有効活用の推進(資料7) 漁獲状況の把握(資料8 アサリ、ハマグリ、ホンビノスガイ生産量 参照)
貧酸素水塊情報の高度化	○漁業者と共同で調査を実施し, 「貧酸素水塊分布予測システム」の運用による貧酸素水塊情報の提供の継続, 浅海域への湧昇を予測するシステムの開発に向けた取組	1. 漁業者と共同の海洋観測による貧酸素水塊分布の情報発信 2. 予測システムの運用による貧酸素水塊分布予測の情報発信 3. 沿岸浅海域への貧酸素水塊の波及予測システムの開発 ・沿岸浅海域貧酸素水塊予測システムの運用開始 ・水産有用種の分布実態の把握(4月から毎月1回実施)	1. 漁業者と共同の海洋観測による貧酸素水塊分布の情報発信 2. 予測システムの運用による貧酸素水塊分布予測システムの情報発信 ・4月以降, 貧酸素水塊速報を12回発信済。 3. 沿岸浅海域への貧酸素水塊の波及予測システムの開発 ・沿岸浅海域貧酸素水塊予測システムの運用開始。:平成26年3月以降の運用開始を予定。 ・水産有用種の分布実態の把握(4月以降, 3回実施済み)

3カ年の到達度(見込み)と平成26年度以降の方向性(案)

事業名	平成23～25年度 3か年の目標	3か年の到達度(見込み)	平成26年度以降の方向性(案)
豊かな漁場への改善の取組	○漁業者・地元市及び県の協力による漁場改善への取組, モニタリング調査を通じた漁場改善効果の把握	「概ね達成された」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者、地元市及び県が協力して行う漁場改善の取組を継続。</li> <li>・漁場改善効果を把握するため、漁業者と共同で流向・流速、底質及び生物等のモニタリング調査を継続。</li> </ul>
干潟漁場の環境保全	○アオサやヒトデ、ツメタガイの回収除去など良好な干潟漁場環境づくりの推進	「概ね達成された」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業関係者によるアオサ、ヒトデ、ツメタガイ等のモニタリング調査と発生時の回収除去作業の支援を継続するとともに、覆砂や海底耕うん及び二枚貝の放流等新たな干潟保全活動の取組を積極的に支援。</li> </ul>
ノリ養殖対策	○三番瀬の漁場特性・環境に対応した適切なノリ養殖管理技術の向上	「概ね達成された」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も三番瀬の漁場特性や環境変化に対応した漁場の行使やノリ網の管理方法など、養殖管理技術の向上と改善の指導を継続</li> </ul>
貝類漁業対策	○アサリの冬季減耗対策, 稚貝対策, ハマグリ資源培養, ホンビノスガイ資源の有効活用の推進	「概ね達成された」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリ生産の維持・増大対策として、網袋による稚貝の育成技術の効果を検証するとともに、漁業者が実施する覆砂や海底耕うんによる生息環境の改善によるアサリ等の稚貝の発生及び沈着の促進。</li> <li>・ハマグリ種苗の育成技術開発の継続。</li> <li>・ホンビノスガイは組合管理のもと資源の有効利用を推進。</li> </ul>
貧酸素水塊情報の高度化	○漁業者と共同で調査を実施し、「貧酸素水塊分布予測システム」の運用による貧酸素水塊情報の提供の継続, 浅海域への湧昇を予測するシステムの開発に向けた取組	「概ね達成された」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者と連携した観測を行い、沿岸浅海域への湧昇を予測するシステムにより高精度な貧酸素水塊情報を提供。</li> <li>・新たに就航した多目的調査指導船ふさなみの運航による高精度な漁場環境データの収集と提供。</li> <li>・貧酸素水塊が底生生物の消長に与える影響を調査し、影響の少ない漁場の有効利用の推進。</li> </ul>